

「第 1 回酒田沿岸域検討部会（令和 4 年 2 月 10 日）」における意見と対応の方向性

項目	意見・質問	会議内での回答・対応の方向性	備考
漁業関係	<ul style="list-style-type: none"> 漁業者の生業の場所である海に風車が建つことについて検討を進めるに当たっては、酒田地先で既に実施された漁業実態調査の内容について、その理解と認識を深めるにはどうするのか、どのような施策をもって漁業協調策等検討会議を設置するのかという点を明確にしてほしい。 (県漁協・西村委員) 	<p>⇒ 漁業者の生活の場でどこが共存可能かを研究・検討していく中で、漁業者の皆様の考えをしっかりと聞きながら進めていくことは大切なことである。今後 NEDO の事業として実施される漁業実態調査も、既にある酒田地先の漁業実態調査を理解・整理したうえで進めていただき、情報を皆で共有しながら、研究・検討を進めていくことが大事である。(事務局)</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> 酒田市沖における NEDO の調査研究事業については、当初説明が足りず漁業者も混乱していたが、調査の際には漁場を空ける必要があるので、可能な限りスムーズな日程で調査を終えるようにしていただきたい。そのためにも、漁業者全体で協力していきたいと思っている。漁業者の生活がかかっているため、県は漁業者の意見に真摯に耳を傾けていただき、これからの様々な会議を有意義なものにしていきたい。 (県漁協・西村委員) 	<p>⇒ 本部会は、特に回数や期間を設けるわけではなく、並行して漁業協調策等を考え、情報を共有しながら、皆さんと一緒に研究・検討を重ねていきたい。(事務局)</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> 県では新規漁業者のために様々な支援や助成を行っているが、洋上に風車が建った場合、共同漁業権漁場(海共第 2 号)内での漁業は難しくなると思う。新規の漁業者や後継者が全然出てこなくなると思うが、その点はどのように考えているか。 (北部小型船組合・長谷川委員) 	<p>⇒ 洋上風力発電と漁業との共存共栄をしっかりと描き、そのためにどのようなことができるのか、検討・研究を行うことが何よりも大事だと考えている。(事務局)</p> <p>⇒ 洋上風力発電ありきということではなく、実際どういうことができるのかをよく検討して進めることが大事だと考えている。 (庄内水産振興課)</p>	

項目	意見・質問	会議内での回答・対応の方向性	備考
漁業関係	<ul style="list-style-type: none"> 酒田と飛島の間にある国土交通省が設置している波高計の周りに魚が沢山いると聞いた。情報提供の中でも、洋上風車に人工の魚礁が期待できるとあったが、漁業権との関係はどうか気になった。また、風車の近くにプレジャーボートが集まって釣りをしているのか。 (自治会連合会・阿部委員) 	<p>⇒ 風車の基礎に魚が集まるかどうかはやってみないと分からない部分もあるが、少なくとも、何もなかった海中に構造物ができると魚影が集まってくるという事例はある。例えば、波高計だけではなく、センサー付きのロープを一時的に海中に垂らしておいた場合などでも魚群が集まってきていることは、JAMSTEC（海洋開発研究機構）から画像データとして出されている。また、長崎県五島の浮体式洋上風力発電でも、周りに魚群が巻いていることが画像で確認されている。 (海洋産業研究・振興協会・中原委員)</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> おいしい庄内の魚が食べられることを担保にしてほしいと思うが、先ほどの情報提供の中で、風車の支柱にできる魚礁等、メリットがあることも学んだ。 (商工会議所・矢野委員) 	<p>⇒ 実際に風車が建った場合、どこまでプレジャーボート等が接近できるかという質問について、まず前提として、海域の占用許可は、基本的に長期間その場所に固定されるものを対象とするものであり、船の航行を制限するものではない。ただ、風車の安全管理上、どこまで近づくことが可能か、離隔距離をどのくらいとるのかという議論は別途行うことになるが、これは事業者が選定された後に、選定事業者と関係者が協議をした上でどういったルールにするのかを決める話である。そのため、法律によって船の航行が一律に制限される訳ではなく、地域としてどういうルールにするかということ、今後、関係者が協議の上で決めていくことになる。 (資源エネルギー庁)</p>	

項目	意見・質問	会議内での回答・対応の方向性	備考
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 酒田は白鳥の飛来地であるが、風車による白鳥の事故について、海外の事例も含め教えてほしい。 (自治会連合会・阿部委員) 	<p>⇒ 酒田市沖に関しては現地に知見がなく分からないが、北海道の北部にも白鳥の飛来地で、かつ風の状況が非常に良く、風力発電の好適地と呼ばれるエリアがある。実際、そこには沢山の風車が設置されているが、当然のことながら事前に調査されたうえで、白鳥が飛来してくる場所や飛行ルートなどを極力回避した形で事業計画が練られ、実際に風力発電所として運転していると聞いている。また、当協会として、会員事業者を対象に鳥の死骸の発見に関する調査をしたことが何度かあるが、その中では白鳥の死骸を発見した例はなかったと記憶している。 (日本風力発電協会・斉藤委員)</p>	
安全面等	<ul style="list-style-type: none"> 過去に大きな貨物船が座礁する事故が何件かあったが、風車と貨物船が接触する心配はないのか。 (自治会連合会・阿部委員) 	<p>⇒ 貨物船に限らず、想定海域に風車が建設されれば海難の発生は全くゼロとは言い切れない。事業者が選定された後、当該事業者が主体となり、海域利用者等の関係者と十分な協議の上、安全管理体制の検討を行い、海難を起こさせないルール作りを行うことになっている。酒田海上保安部は、その一員として協議会に参画し、実効ある対策となるよう安全確保に貢献したい。 (酒田海上保安部※)</p>	※ 会議後に確認

項目	意見・質問	会議内での回答・対応の方向性	備考
進め方関係	<ul style="list-style-type: none"> 正しい情報を地元の青年経済人の間で共有することだと思う。洋上風力発電が好きか嫌いか、賛成か反対かの前に、きちんとした事実の整理と把握をし、地域住民として勉強していきたい。 (商工会議所・矢野委員) 	⇒ 本部会は、特に回数や期間を設けるわけではなく、並行して漁業協調策等を考え、情報を共有しながら、皆さんと一緒に研究・検討を重ねていきたい。(事務局)【再掲】	
	<ul style="list-style-type: none"> 「風」は地球の資源であり、これを有効に活用し、我々青年経済人としても、地域の次の世代の子供たちのことを考えていかなければならないと思っている。この地域においては「風」から生み出されるエネルギーを議論する段階に来ている。地域の次の世代の子供たちにきちんとした資源を受け継いでいきたいという意味で、洋上風力発電は必要性かつ可能性の非常に高い選択肢の一つだと考えており、これからも委員の皆さんと情報共有しながら、色々な意見を交わし、しっかり勉強していきたい。 (商工会議所・矢野委員) 		
	<ul style="list-style-type: none"> 酒田部会は、今後、どのような形で協議がされていくのか、スケジュール的なものも含めて教えていただきたい。 (八幡自治会長会・信夫委員) 		